

沿革（歴史）

川崎市立小学校養護研究会では、昭和38年度から年に一度、各区の研究の成果まとめて研究発表会を行っています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、紙面報告となりそれを機に名称を研究報告会と変更しました。

各地区での研究の成果をまとめた「研究紀要」は、子どもたちの健康管理や健康教育の充実を目指した研究の記録です。手に取ると、時代の流れや当時の子どもたちの健康課題や様子がわかります。学校保健に関する様々な資料や書籍が手に入らなかった頃から、各校の保健室を中心に、職務を遂行して重ねた養護教諭一人一人の実践から成り立つ共同研究の成果物を、貴重な資料としてきました。

昭和37年度

川崎市学校保健会養護部会養護教員研究会を解消し、教育課程研究会の一研究会として川崎市公立小、中、高別養護研究会として発足、現在に至ります。川崎市小学校教育研究会が発足し、養護研究会も他の研究会とともに研究活動を開始しました。

昭和38年度

この年から、毎年研究発表会が行われてきました。

昭和57年度

川崎市が5地区から、7地区になり研究発表会も2地区ずつの発表となりました。

平成23年度

養護教諭から管理職に昇任した校長が養護研究会副会長になり、会の運営に関わることになりました。

平成24年度

養護研究会長に、養護教諭から管理職に昇任した学校長が初めて就任しました。

平成28年度

養護教諭から管理職に昇任した教頭が養護研究会副会長になり、会の運営に関わることになり、規約を副会長2名から若干名に改訂しました。

令和2年度

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、会場に参集の研究発表会が実施できない状況から、紙面による研究報告会が行われ、名称も報告会に変更しました。

令和3年度

養護教諭から管理職（校長）に昇任された前会長が養護研究会顧問に初めて就任しました。

総会は、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策のため紙面で行い、運営委員会、地区研究会、研修会、研究報告会等は、GIGA端末を活用したオンラインによる開催を主として実施しました。

授業研究会開催を検討し、特別活動研究会と共催で授業研究会を実施しました。

令和5年度

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、運営委員会、地区研究会、研修会、研究報告会を参集型で実施しました。